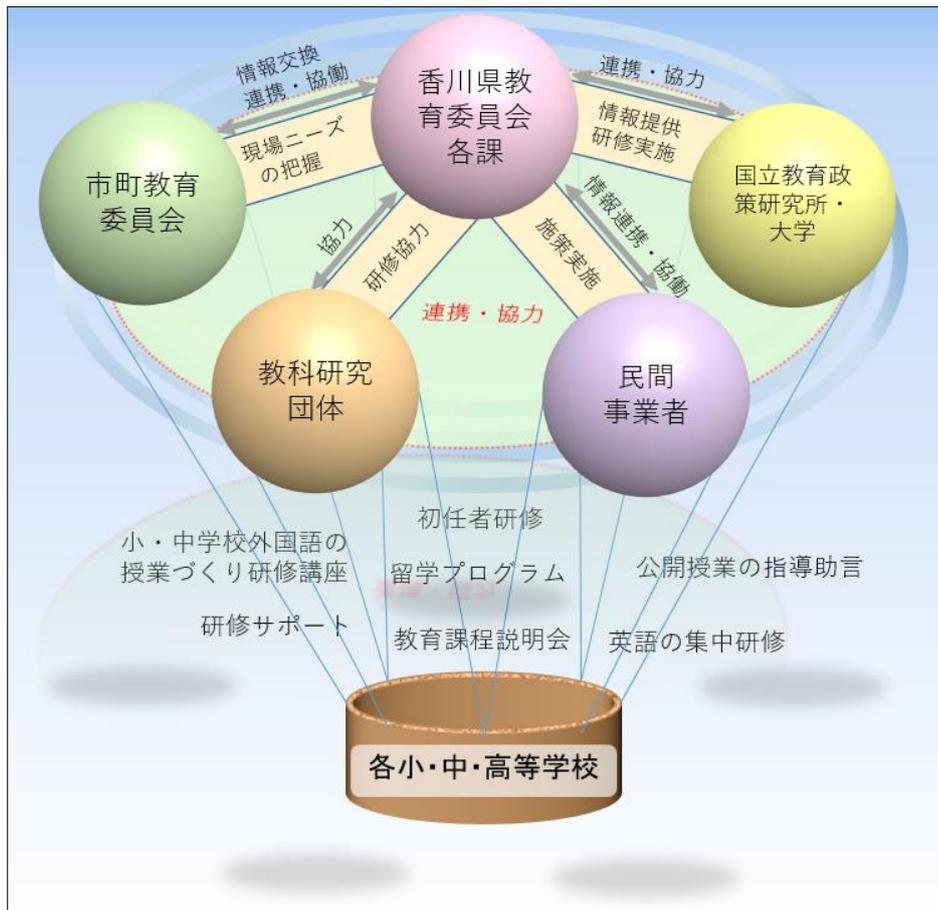


# 香川県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



香川県の小・中・高等学校を通じた外国語教育強化に向けたイメージ

香川県の教育基本理念：夢に向かってチャレンジする人づくり

目指す生徒像：グローバル社会で活躍できる人材の育成（香川県教育基本計画）

育成すべき資質能力：語学力、コミュニケーション能力、主体性・積極性、チャレンジ精神

本県の現状と課題		本県の主な対応策		
		高等学校	中学校	小学校
<b>CEFR</b> B2 (英検準1級等) B1 (英検2級等) A2 (英検3級等) A1 (英検3級等)	<b>高等学校</b> 【現状】 教員の英語力(83.8%) 生徒の英語力(42.6%) CAN-DOリストの設定(100%) 公表(16.0%)把握(50.0%) パフォーマンステストの実施状況(37.4%) 【課題】 CAN-DOリストの活用と公表の促進 パフォーマンステストの実施促進 4技能の定着を意識した授業改善	「トビタテ留学！ JAPAN」や県独自の留学支援制度 AIツールを活用した個別最適化学習 基本的に英語授業を英語で実施 留学フェアや留学相談会 スピーキングテスト実施 外国語専科教員による指導		
	<b>中学校</b> 【現状】 教員の英語力(38.7%) 生徒の英語力(34.9%) CAN-DOリストの設定(100%) 公表(6.1%)把握(30.3%) 英語が好き、将来役に立つ(47位) 【課題】 ・教員及び生徒の検定受検機会の確保と英語力強化 ・授業改善研修の改善 ・CAN-DOリストの活用と公表の促進 ・思考力・判断力・表現力を育成するための言語活動の充実 ・英語好きを増やす授業、生徒が有用性を感じる授業の創造	新教育課程説明会・教育課程運営改善連絡協議会 英語指導力向上を目的とした公開授業・研究討議 中・高接続に関する研究 小・中外国語ワークショップ 資格検定試験の受検及び補助 パフォーマンステストにみるCAN-DOリスト活用事例研修 小学校外国語授業づくり研修講座		
	<b>小学校</b> 【現状】 県独自の小中連携事業により、中学校の教員が校区内の小学校の英語の授業をサポート。 【課題】 ・小中連携体制の強化 ・小中学校に指導内容及び指導方法の継続的な接続 ・児童の気づきを生かした3・4年生への指導方法の開発・検討 ・5・6年生の成果物の共有と各校の実態に合った接続的な接続	ALTとの合同指導力向上研修 英語指導スキルアップ研修 英語主任会 中高英語部会研究大会（四国大会） 高校英語教員談話会 小中連携事業の成果活用 県サポート研修（教育事務所や教育センター、市町教育委員会と連携した指導・助言） ALTの増員	初任者研修 英語の集中研修 公開授業の指導助言	外国語専科教員の活用

## (2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

## ○英語教育の状況を踏まえた目標管理

本県では、「英語教育実施状況調査」や「全国学力・学習状況調査及び児童生徒質問紙」の結果を踏まえ、教員の指導力・英語力向上及び生徒の着実な英語力向上を図るため、以下の目標設定と管理の下で本事業を実施する。

## ① CAN-DO リスト形式による学習到達目標の設定、公表及び達成度の把握等の状況

【R3 目標値】 [中学校] 設定 100% 公表 60.0% 把握 70.0%  
[高等学校] 設定 100% 公表 50.0% 把握 80.0%

【R1 達成値】 [中学校] 設定 100% 公表 6.1% 把握 30.3%  
[高等学校] 設定 100% 公表 16.0% 把握 50.0%

## 【方 策】

- ・中学校において、「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標は、生徒が学習を進めていく上で明確な指標となることや、目標と指導、評価の一体化を図る観点から、中学校授業づくり研修会や教育課程運営改善連絡協議会等の際に、その必要性について指導・助言等を行い、各校での活用を図る。
- ・日頃の指導場面において、何をいつまでにできるようになるか、そのためにどのような指導や評価を行うのかを意識できるよう、県下の研究団体と連携し、学習到達目標と単元計画を整合させた上で行う授業の具体例を示し、周知・啓発する。公表について改善が進んでいないことから、授業者と生徒で学習到達目標の共有について周知を図るとともに、評価場面で具体的な活用方法について普及を図る。(改善が進んでいない項目)
- ・高等学校においては、生徒の英語4技能の向上のために、教員によるCAN-DO リストの作成・公表・達成状況の把握の3点について、学校の指導訪問や英語科主任会等で情報共有と指導を行う。令和4年度からの新学習指導要領開始に向けて、CAN-DO リスト・年間指導計画ともに5領域での作成について指導・助言を行う。

## ② 生徒が授業において英語による言語活動を行う時間の割合

【R3 目標値】 [中学校] 90.0% [高等学校] 75.0%

【R1 達成値】 [中学校] 88.4% [高等学校] 69.3%

## 【方 策】

- ・優れた指導技術をもつ授業力リーダーによる公開授業及びその後の研究討議等を通じて、生徒が英語を用いる言語活動が中心とする授業の在り方や、その有効性について理解を深めるとともに、その指導技術を学ぶ。研修に参加した教員は、校内研修等の機会に研修の成果を普及する。
- ・教育事務所や市町（学校組合）教育委員会と連携し、目的、場面、状況に応じた英語表現になっているかについて教員が適切に指導した上で、生徒の英語による言語活動が中心となる指導方法等について指導・助言する。
- ・高校においては、生徒の英語による言語活動の時間を増やすために、ペアワーク・グループワークを基本とした学習形態が主流となるよう、英語科主任会や学校訪問時等に助言を行う。
- ・高校においては、4技能（5領域）のバランスのよい定着を意識した言語活動を推進するため、公開授業を行い、指導方法を学ぶ機会とする。

## ③ 「話すこと」及び「書くこと」のパフォーマンステストの実施状況

[中学校]

## 【R3 目標値】

スピーキングテスト 3回 ライティングテスト 3回

## 【R1 達成値】

スピーキングテスト 2.9回 ライティングテスト 2.0回

〔高等学校〕

【R3 目標値】

コミュニケーション英語Ⅰ	スピーキング 2.3	ライティング 2.3
コミュニケーション英語Ⅱ	スピーキング 2.3	ライティング 2.3
コミュニケーション英語Ⅲ	スピーキング 1.0	ライティング 2.3
英語表現Ⅰ	スピーキング 1.5	ライティング 3.5
英語表現Ⅱ	スピーキング 1.0	ライティング 5.0

【R1 達成値】

	コミュニケーション英語Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅲ	英語表現Ⅰ	英語表現Ⅱ	総合英語	異文化理解
スピーキングテスト	1.83	1.62	0.54	1.09	0.55	15.0	0
ライティングテスト	1.73	1.42	1.43	3.23	4.21	9.0	1

【方 策】

- ・生徒が「話す力」と「聞く力」を確実に身に付けることができるよう、計画的・系統的な指導や評価の重要性を県の教育実践の手引を作成して周知する。
- ・県の英語の学習状況調査（2年生）に民間のスピーキングテストを加えた4技能調査とし、生徒の英語力の実態を把握する。また、調査結果を分析し、指導改善につながるよう、各市町教育委員会及び学校に具体的な指導例を示す。
- ・県立高校に対し、ALTをパフォーマンステストに活用することを推進し、活用について各校に報告を求める。

#### ④ 英語科教師の授業における英語使用状況

【R3 目標値】 〔中学校〕 85.0% 〔高等学校〕 70.0%

【R1 達成値】 〔中学校〕 85.6% 〔高等学校〕 55.1%

【方 策】

- ・教育事務所や市町（学校組合）教育委員会と連携し、学校を訪問する際、授業者の発話だけでなく、生徒とインタラクションを図りながら言語活動を展開する指導方法や思考・判断・表現する力が育成されるような言語活動等について指導・助言する。
- ・高校においては、全ての学校訪問で、基本的に授業は英語で行うことについて引き続き指導する。学校訪問時の授業参観（全学年全クラス）で、英語使用状況に問題がある学校については、当日の指導だけではなく、個別の指導を継続し、状況改善について報告を求める。

#### ⑤ 求められる英語力を有する中・高等学校英語科教師の全担当教員に占める割合

【R3 目標値】 〔中学校〕 50.0% 〔高等学校〕 87.0%

【R1 達成値】 〔中学校〕 41.2% 〔高等学校〕 83.8%

【方 策】

- ・ALTとの合同で実施する指導力向上研修に小・中・高等学校の英語担当教員の希望者を募り、普段使用するクラスルームイングリッシュをはじめとした表現の適切さや正確さをALTに確認するなど、テーマ別のグループ協議を通して、教員の語彙力や英語運用能力の強化を図る。
- ・CEFR B2 レベル以上を取得している英語担当教員の割合が高い県に比べて、受検経験者の割合が低いことから、県の資格試験受検費補助事業について周知する。
- ・高校においては、学校訪問等の機会に英語教員に4技能試験を教員自身が受検し続けることの重要性について意識付けを行う。
- ・教員採用選考試験へ出願する際、英検一級、TOEFL iBT 92点以上、TOEIC 850点

以上の英語運用能力を持つものは、専門教養（英語）を免除することができるようにする。

### ⑥ 求められる英語力を有する生徒の割合

【R3 目標値】       〔中学校〕 50.0%   〔高等学校〕 45.0%

【R1 達成値】       〔中学校〕 34.9%   〔高等学校〕 42.6%

#### 【方 策】

- ・ 県教育委員会が実施する学習状況調査と合わせて4技能の調査となるよう、民間のスピーキングテストを実施する。調査の結果については、成果や課題、改善策等を各校の英語担当教員に周知し、生徒の英語力を高めるよりよい学習指導について具体を挙げて指導・助言する。
- ・ ALT等指導力向上研修に小・中学校の英語担当教員の希望者を募り、効果的なティーミングの在り方について協議する。目的、場面、状況に相応しい英語や児童生徒が考えた英語の運用について適切に指導できるよう、教員がALT相手に英語を運用する機会を増やす。
- ・ 今後一層、生徒が英語で表現する能力が求められることから、令和元年度から県立高校においてALTを2名増員し、生徒の英語力の向上を図っており、令和3年度についても増員を要求している。
- ・ 「トビタテ留学！ JAPAN」や県独自の留学支援制度について、各県立高校に十分な周知を行うとともに、中高生を対象とした「留学フェア」や「留学相談会」を実施することにより、授業以外でも英語学習に対する動機づけを図る。

### (3) 研修の体系と内容の具体

以下の研修については、各研修後にアンケート調査を実施しその結果を検証するとともに、成果と課題を次年度以降の研修に反映させる。実施の可否については、新型コロナウイルス感染症に対する香川県対処方針及び、文部科学省の衛星管理マニュアルに従う。また、会場については、関係の業者別ガイドラインに基づいて感染症対策を行っている場所とする。

#### 【各校種】

研 修 名：小学校外国語の授業づくり研修【小】

研修対象者：小学校教員・小学校外国語専科教員

研修目的：学習指導要領の趣旨に沿った指導の在り方及び指導力の向上

内 容：香川県教育委員会事務局による講話及び演習

定員見込：30名

評価方法：参加者によるアンケート

連携体制：香川県教育委員会、市町教育委員会

研 修 名：初任者研修【小】

研修対象者：小学校新規採用教員

研修目的：新規採用の全ての小学校教諭に小学校の英語の授業について見識を深めること

内 容：県事務局の指導主事から小学校での外国語の授業の在り方や現状について学ぶ

定員見込：30名

評価方法：参加者によるアンケート

連携体制：県教育センター

研 修 名：中学校外国語の授業づくり研修【中】

研修対象者：中学校英語教員

研修目的：新学習指導要領の趣旨に沿った学習指導及び評価方法の改善

内 容：パフォーマンス評価についての資料を持参した実践研修

定員見込：30名  
 評価方法：参加者によるアンケート、追跡調査等  
 連携体制：県教育センター

事業名：英語スピーキングテスト  
 対象者：県立及び公立中学校に在籍する2年生全員【中】  
 事業目的：中学生の英語力の向上及び結果に基づく授業改善や教材開発の推進  
 内容：「話すこと」に関する能力の外部検定試験の実施  
 実施人数：8200名  
 評価方法：抽出校へのアンケート  
 連携体制：民間事業者

研修名：英語科主任会【高】  
 研修対象者：各校英語科主任  
 研修目的：「英語教育実施状況調査」の結果説明  
 内容：調査結果に基づいた授業改善の視点について伝達  
 定員見込：30名  
 評価方法：参加者によるアンケート  
 連携体制：民間事業者

事業名：高校教員英語指導力向上事業  
 対象者：高校英語教員【高】  
 事業目的：高等学校教員の指導力向上  
 内容：優れた指導力を持つ教員の公開授業及び研究協議  
 定員見込：30名×2回  
 評価方法：参加者によるアンケート  
 連携体制：香川大学、高松大学

研修名：高校英語教員談話会【高】  
 研修対象者：高校教員、香川大学英語担当教員  
 研修目的：授業改善についての情報交換  
 内容：録画した授業についての研究協議、研究発表、言語活動の共有  
 定員見込：15名×9回  
 評価方法：参加者によるアンケート  
 連携体制：県教育委員会、香川大学

【小・中学校・高等学校共通】

研修名：外国語指導助手の指導力等向上研修  
 研修対象者：小・中・高等学校の英語担当教員  
 研修目的：教員の英語力や英語発信力の向上  
 内容：ALT等とのグループ協議及び英語の正しい運用に関する情報交換  
 定員見込：50名  
 評価方法：参加者によるアンケート  
 連携体制：知事部局国際課

事業名：研修サポート事業・要請訪問  
 対象者：各小・中・高等学校  
 事業目的：校内の英語研修の支援  
 内容：校内研修や授業研究の指導者として県教育センターや高校教育課指導主事等を派遣

<p>実施校数：30校          評価方法：各種アンケート          連携体制：県教育センター、高校教育課、教育事務所</p> <p>研修名：新教育課程説明会・教育課程運営改善連絡協議会          研修対象者：小・中・高等学校教員          研修目的：学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の確実な実施          内容：指導方法の工夫改善や評価に関する研究協議及び資料提供          定員見込：1000名（全校種合計）          評価方法：参加者によるアンケート          連携体制：県教育委員会、各教育事務所</p> <p>研修名：外国語ワークショップ          研修対象者：小・中学校教員          研修目的：小・中学校教員の英語指導力の向上          内容：学習指導要領の趣旨を踏まえた効果的な言語活動の在り方等について学ぶ          定員見込：40名（両校種合計）          評価方法：参加者によるアンケート          連携体制：県教育委員会、各教育事務所、市町教育委員会、研究団体</p> <p>研修名：中高英語部会研究大会（四国大会）          研修対象者：中学校・高等学校の全英語教員          研修目的：英語指導技術の向上、及び今後の英語教育推進の方向性の確認          内容：英語教育の研究団体と連携した公開授業、研究協議、講演会          定員見込：500名（中高合同）          評価方法：参加者によるアンケート          連携体制：県教育委員会、研究団体</p>
--

## (4) 年間事業計画

月	本県の主な取組	連携する団体等（予定）
4月	高校英語教員談話会	香川大学
5月	英語科主任会（高） 高校英語教員談話会	高校教育課 香川大学
6月	研修サポート事業 高校英語指導力向上事業① 高校英語教員談話会	県教育センター・教育事務所 香川大学 香川大学、高松大学
7月	高校英語教員談話会	香川大学
8月	教育課程運営改善連絡協議会（小・中） 教育課程運営改善連絡協議会（小・中） 小学校外国語の授業づくり研修 中学校外国語の授業づくり研修 新教育課程説明会（高）	東部教育事務所 西部教育事務所 県教育センター 県教育センター 高校教育課
9月	高校英語教員談話会 外国語ワークショップ	香川大学 市町教育委員会、研究団体等
10月	研修サポート事業 初任者研修 高校英語指導力向上事業② 高校英語教員談話会	香川大学 県外国語教育研究団体 香川大学、高松大学 香川大学

1 1 月	中高英語部会研究大会（四国大会）	県外国語教育研究団体
1 2 月	高校英語教員談話会	香川大学
1 月	高校英語教員談話会	香川大学
2 月	外国語指導助手との合同指導力向上研修 高校英語教員談話会	知事部局国際課 香川大学
3 月		
<p><b>【その他の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考となる学習指導案やクラスルームイングリッシュ集を県教育センターのホームページに掲載し、活用を促す。</li> <li>・ICT 活用の授業における取組について、「香川県立学校 ICT 活用教育プロジェクトチーム」の研究を通して、事例などを紹介し、県下の英語の授業における ICT 活用を促進する。</li> </ul>		

